

PTA 母の会が飾って下さる 遺愛の「おひなさま」

遺愛では毎年 2 月のはじめに、PTA 母の会の委員の方々がいらして「おひなさま」をホールのところ飾って下さいます。心から感謝申し上げます。「おひなさま」が飾られると、ホール全体がとても明るく華やかに見え、女子校らしさが漂います。

ひな祭りの由来は、平安時代中頃に、もともと紙人形を作って海や川に人形を流し、身のけがれをおはらいする行事からきているといわれています。

現代におけるひな祭りには、清めやおはらいというよりも女の子が健やかに育ち、幸せであるようにとの願いを込めてひな人形を飾るのが風習となっています。桃の花を供えて、ひなあられ、ひし餅などを並べるのが一般的で、3 月 2~3 日の間にお祝いの席や会食をもうけることもあり、会食の席ではちらし寿司や甘酒（白酒）、はまぐりのお吸い物などが供されます。

ひな人形を飾るのには、娘を授かった親の「子の幸せを想う気持ち」や、女性を難事から守るといった意味合いが込められているのだそうです。

ひな人形に欠かせない「お雛様」と「お内裏様」の並べ方について

は、現在は向かって左にお内裏様、向かって右にお雛様となるのが一般的ですが、古来のスタイルではこれが逆になっており、今でも京都などの一部地域では、向かって右にお内裏様、向かって左にお雛様を並べるところもあります。昭和になって、欧米の影響を受けて、左にお内裏様、向かって右にお雛様になったそうです。遺愛のおひな様も現代風に並んでいます。

2022 年 2 月 5 日

